



## 日本で有名な焼き物はどんな種類があるの

### 焼き物という陶磁器

日本では陶磁器のことを「焼き物」とよんでいます。陶磁器とは、陶器と磁器をいっしょにしたよび方です。原料や焼くときの温度によって、土器、陶器、せつ器、磁器に分けられます。

土器と陶器は、焼くときの温度がわりあい低く、質があらくて、素地に吸湿性があり、たたくとにごった音を出します。陶器には、産地によって瀬戸焼、京焼、美濃焼、乾山焼、薩摩焼、粟田焼、相馬焼、益子焼などがあります。

せつ器は、1200前後の温度で焼いた、うわぐすりをかけていない焼き物です。信楽焼、備前焼、越前焼、丹波焼、常滑焼などがあります。

磁器は、高温で焼いて作る、半とう明のかたい焼き物です。大部分がガラス質からなる吸水性のない焼き物です。九谷焼、伊万里焼などがあります。

### 「瀬戸物」ということば

日本では、陶磁器をさして「瀬戸物」といっています。陶磁器の産地として瀬戸というところが有名なので、瀬戸物というようになったのです。

厳密な意味での「瀬戸物」とは、瀬戸焼のことです。愛知県瀬戸市とその周辺で作り出される陶磁器の名前です。（監修・青木 国夫）

